

# 優勝！九州大会出場

## 2回戦

### ②-1 人吉二

長谷川・稲尾 ③(S4-1 4-1 4-1)0 牛塚・菖蒲

田尻佳・田尻光 1(R1-4 1-4 4-0 4-6)③ 中本・神瀬

風の影響が大きく、佳吾くんのサーブ、ストロークが安定せず、光基くんも流れを作れず敗戦。

岩本・田尻大 ③(R3-5 4-1 4-2 5-3)1 四宮・尾崎

1ゲーム目を取られたときは、重い空気も流れたが、麻緋くんの落ち着いたラリーで流れを作り、最後は大夢くんのタイミングばっちりのポーチボレーで初戦突破。

## 準々決勝

### ②-0 八代二

長谷川・稲尾 ③(R5-3 7-5 6-4)0 村岡・右谷

3ペアとも県大会(個人)に出場している八代二中との対戦。鈴くんが村岡くんに対し、深いボールで攻める。攻められても確実に返し、試合を優位に進める。海利くんもネット前で守り中心の動きをして仕事をきっちり行い、甘く返ってきたボールをスマッシュで決め③-0で2番手につなぐ。

田尻佳・田尻光 ③(S4-1 4-2 5-3)0 吉田・藤田

県大会(個人)でファイナル負けをした相手とのリベンジマッチ。初戦のことを切り替えさせゲームに入る。多少のミスはあったものの、風が吹く中でも感覚を取り戻し、勝利。準決勝へ。

岩本・田尻大 — 川野・園田

## 準決勝

### ②-0 出水南A(2面平行)

岩本・田尻大 ④(R0-4 4-2 4-0 4-0 2-4 5-3)2 桑原・橋本

出水南とは公式戦3回目の試合。これまで0-②、1-②で負けているので、3度目の正直。1ゲーム目はあっさり取られるが、2ゲーム目以降、桑原くんのボールを麻緋くんが粘り強く確実に返し、チャンスになると攻める展開を作る。大夢くんもローボレーなどを冷静に返し、ミス少なくプレー。点を取ったときの声がいっしょに出ており、雰囲気をつくる。④-2で見事勝利！

長谷川・稲尾 ④(R6-8 4-0 2-4 4-1 4-2 8-6)2 坂本・辻

1番手の坂本・辻ペアとの対戦。辻くんはボールを集めると攻められる可能性が高いので、ミスは少ないが、得点のチャンスを増やせる可能性がある坂本くんとの勝負を確認し、試合に入る。鈴くんは徹底して坂本くんとラリー。長いラリーが続くが確実に点を重ねていく。海利くんもポーチボレーに出るなどして、坂本くんのラリーを邪魔しに行く。6ゲーム目は0-3と厳しい展開であったが、隣のコートで麻緋くん、大夢くんの点を取ったときの声が2人の後を押し、集中力を持続させ粘り強く戦う。2人とも気持ちさがさらに乗り、個人で九州大会出場を決めているペアに勝利し、決勝進出。

田尻佳・田尻光 (S4-0 2-1 打ち切り) 濱津・森

2面展開で、岩本・田尻ペアの試合が先に終わったので、そのコートに入って試合、八代二中戦同様、個人戦で負けている相手に対し、気持ちが乗ったプレーでリードしていく。途中で、長谷川・稲尾ペアが勝ったため、途中で打ち切り。良い流れで試合を進められた。

## 決勝

### ②-0 白川(2面平行)

長谷川・稲尾 ④(S4-6 6-4 5-3 4-2 4-2)1 三本・一安

勝てば九州大会出場決定となる試合。2人は個人戦で敗れた三本・一安ペアとの対戦。個人戦では、3~4本のネットインで敗れていたもので、そのときのことは忘れさせ、どんどん攻めようと指示。鈴くんが三本くんと徹底的にラリーをして、押していく。海利くんもポーチボレーで関わっていくが、三本くんがネット(白帯)ギリギリの場所の打ってくるので、ボレーしづらく決まらない。3ゲームが終わり、ベンチに戻ってきたとき2人に、「4ゲーム目を取ったときに(3-1になったとき)、ボレーで攻撃できるよう、4ゲーム目は三本くんに鈴くんと勝負を意識させよう。ゲームを取ると、相手が攻められなくなるので、そこでボレーに出て勝負しよう」と話をする。海利くんはきっちり守りの仕事をして、三本くんは鈴くんと勝負に集中していく。ゲームを取ると、三本くんのストロークの威力が弱くなり、海利くんの近くにボールが集まるようになる。相手がスライス回転で打ってくるボールにも2人ともきちんと対応し、海利くんが確実に決めていく。最後まで攻め続け、またこちらのネットインも2本あり、リベンジマッチを制した。

田尻佳・田尻光 ④(R4-6 4-2 6-4 4-0 2-4 2-4 7-1)3 荒木・武末

準決勝の良い流れのままゲームに入る。佳吾くんのラリーも安定し、どんどんシュートボールで攻めていく。相手後衛荒木くんはわざと打点を落とし、光基くんが動いた逆について光基くんのミスを誘うプレーをしていく。しかし、光基くんもパターンを掴み始めると、じっくり待ってプレーできるようになる。その後こちらが風下のときは佳吾くんが荒木くんと打ち合っアウトを誘い、風上のときは、光基くんがポーチボレーに出て点を決めるなど、2人のプレーがかみ合っていく。ファイナルゲームに入るときには、長谷川・稲尾ペアの試合が終わっており、勝ったことがわかっていたと思うので、意欲高くゲームに入る。先手を取り、声を出して盛り上がり勝利。優勝し、目標としていた九州大会出場のキップを手にした。

岩本・田尻大 (R4-3 打ち切り) 久保・森

田尻佳・田尻光ペアが勝つことを信じてつても、3番勝負になったときのことも考え、気持ちを高め、どんどん向かっていく。アドバンテージレシーバーの段階で、田尻佳・田尻光ペアが勝利し、ゲーム終了。

この大会は最後まで相互審判だったため、英将くん、輝くんには審判に徹してもらった。2人とも堂々と審判ができ、相手からの質問に対してもハッキリと答えられていたので、締まったゲームになった。応援をしてくれた宙世くん、颯汰くんも最後まで大きな声で雰囲気盛り上げてくれ、チームのために最後まで頑張ってくれた。この4人の頑張りがあったからこそ、試合をした6人はゲームに集中することができた。10人全員が自分の役割を果たし、ペアで話し合いをしながら進めることで、息のあったプレーが増え、点を取ったときの声で雰囲気を盛り上げたことが優勝につながったのだと思う。また、前回の県大会では、7ゲームを戦ううえでの集中力が課題として上げられたが、各ペアその課題を克服できたことも、とても大きかった。

今回優勝できたとはいえ、熊本県第3代表として九州大会に出場することになった。各県3チーム出場するので、3ペアリーグが8つあり、上位1チームが決勝トーナメントに出場する。うちは、初戦各県の1位と、2試合目は各県の2位と試合をすることになる。目標としていた九州大会出場を決めたので、次は九州大会に出場する相手にどれだけ通用するのか、チャレンジ精神で九州大会に挑もう。そのために、少ない練習時間を大切にすることはもちろんのこと、昼休みにボールを打ったり、帰宅後、走ったり、筋トレをしたりするなど、個々の力を伸ばす取り組みをしていこう。冬場は自分との勝負。自分を高め、成長する取り組みを日々進めていこう。

**「努力した者が成功するとは限らない。**

**しかし、成功する者は皆努力している。」**